

令和5年度 自己評価・自己点検のまとめ

令和5年3月20日

認定こども園 みどりのかぜエデュカーレ

当園では、社会福祉サービスの充実と教育・保育の質の向上を図り、子ども達の健やかな成長と安全確保、また、職員一人ひとりの社会人としての資質の向上を図るためにチェックリストを活用し、良かった点や改善点などを再確認しています。

地域に根ざした施設となるべく環境を整え、今後も子ども達、保護者、子育て世帯等の安心感と満足度向上のために職員一同努力していきたいと思っております。

自己評価

① 教育・保育の質の向上について

保育教諭の専門性の向上を目指すため、園内研修をはじめ、外部研修(オンライン研修)、キャリアアップ研修等に積極的に参加し、新たな学びを日々の保育にいかせるよう、教育・保育の充実を図ってきた。

また、それぞれが学んだことは園内研修を通して全職員に伝え共有しながら相互に教育の質の向上に努めてきた。公開保育を行い、幼児教育保育施設関係者の方々に参加頂き、実践を通して子ども達の学びや育ちについて理解を深め、子どもの主体性を尊重した保育の展開を大切にしていこうと再確認するとともに、保育教諭の役割の重要性について学びを深めることが出来た。

<改善策>

- ・ 広い視野や様々な視点から子どもの姿を大切に捉えられるよう、積極的に園内外の研修に参加する。
- ・ 子ども一人ひとりの中にある可能性を引き出していけるよう、職員間の研修の充実はもとより保育カンファレンス等を通して自己研鑽していくよう努力する。
- ・ 子ども一人ひとりの育ちを丁寧に捉え、保育環境の構成や保育内容の見直しを図りながら子ども主体の保育活動を園全体で展開していく。

② 保育環境整備・安全点検について

園内外の定期的な遊具等の安全点検はもちろん、保育の準備段階で事故や怪我につながるものがないか確認することはとても重要であり、「子どもの命を守る」ことを念頭に、安全に安心して遊び込める環境作りをするよう心がけてきた。

<改善策>

- ・ 環境整備においては、責任が分散し、認識が薄れてしまい、職員一人ひとりが無責任になってしまうことがあった。子どもの集団生活の場としての環境のあり方を再認識し合い、しっかりと自覚をもって、声を出し合い取り組むようにする。
- ・ ちょっとした破損や故障があることで事故を引き起こしかねないという認識を持ち、壊れた場所や物等の確認は職員それぞれの責任の下で気付いた人がすぐ対応するよう心がけ、意識レベルを高めるとともに安心して過ごせる環境作りに努める。

③ 災害時の対応と危機管理意識について

災害時の対策については、職員間で動線を確認し合うなど、避難の仕方が浸透しており、子ども達が泣いたり、戸惑ったりすることなく指示を聞いて行動する姿が見られる。また、今年度は、一次避難所である近隣の中学校の生徒と合同の非常災害時避難訓練を実施した。しかし、いざ本当に災害があった場合は、子ども達の予測不可能な状況を生じかねない。そういう時も慌てずに子どもを第一に取り組む必要がある。

<改善策>

- ・ 避難訓練のみならず、災害が発生した場合の各担当職務について、全ての職員が的確に行動できるよう、何度も確認しておく必要がある。
- ・ 訓練後は、反省と改善を出し合いながら、様々なシチュエーションを想定した訓練や災害の大きさによってどのような被害が起きるかを想定できるようにする。

④ 給食と食育について

毎月の給食会議を通し、現場との意見交換をしながら、メニューなどの改善を行った。また、多様な食物アレルギーや乳幼児の子ども達の離乳食について、給食職員と保育教諭双方が確認し合うようにした。系列園の給食担当者との情報交換を通して、離乳食の進め方やメニュー、食材調査票について学び合い、子ども達へより良い「食」について学びを深めることが出来た。

また、食育活動では、食材の皮むきやおにぎりを握る体験、菜園で育てた野菜を収穫しクッキングする体験などを通して、「食」への興味関心を広げることが出来た。

<改善策>

- ・ 食物アレルギーに対応する中、今後も安心して給食を提供できるよう、給食職員と保育教諭双方のお互いのチェックを怠らず、給食会議等の意見交換を大切にしていきたい。
- ・ 旬の食材に触れたり、実際に収穫した野菜を口にできる、自園調理の良さを存分にいかし、食育の機会を大切にしていこう努める。

自己点検分析

① 子どもの理解

- ・ 子どもと触れ合う中で、子どもの言動や表情から思いや考えなどを読み取ったり、受けとめることを大切に、子どもの思いや成長に寄り添い、教育・保育をより良い方向に改善していく。

② 危機管理

- ・ 常に園の危機管理対策を点検し、子どもたちの安全教育を実施していきたい。
- ・ ヒヤリハットが起きてしまった時は、特に職員同士の申し送りを徹底することで状況を把握し、大きな事故や怪我に繋がらないようにしていきたい。

③ 保護者対応

- ・ 子どもはもちろん、保護者一人ひとりを大切に思い、誠心誠意接する事で、尚一層の信頼関係を築くことが出来ると考え、職員全体で情報の共有に努め、園としての理念や方針が伝わるよう意識していきたいと思う。

クレドの見直し

園の理念が具体的に示されている「保育クレド」は、職員の道しるべとなる。全職員がクレドを基盤に行動することで、組織全体の志気につなげていきたい。そのためのマネジメントはとても大切であり、今後も見直しをはかりながら園の真髄を共有したい。

まとめと今後の展望

《園として》

- ・ 日々の保育に満足せず、自分自身を見つめなおし、一人ひとりが子どもたちのより良い人的環境として成長出来るよう積極的に自己研鑽に努め、様々な園内外の研修に参加し、学ぶ機会を充実させていきたい。
- ・ 社会福祉サービスの質の向上をめざし、子育ての孤立や保護者の負担の軽減にも目を向け、「子育て支援サークル」や「みんなの食堂」の開催など、地域に開かれた園として取り組んでいきたい。また、地域とのつながりを深め、いざという時の災害時の対応を充実させ、有事の際にも安心できる拠点となれるよう今一度環境を見直したいと考えている。
- ・ 保護者とのコミュニケーションを深め信頼関係を大切にし、今後も安心して通園させ、子どもたちが健やかに成長できるようスタッフ一同力を合わせて歩んでいきたい。

《スタッフとして》

- ・ 今まで以上に子どもたちの安心安全で楽しい場となるよう、スタッフが様々な課題意識を持ち、改善策を出し合い、事故や怪我を未然に防げるようにしていきたい。子ども達に対しても一人の人間としての人権を守り、接していく。
- ・ 自己研鑽はもちろんのこと、同僚性を意識し、保育活動を展開していく。より職員のチームワークを強固なものにし、仕事の喜びや楽しさを味わっていけるよう今後の展望が開けていく事を期待したい。